



2026年5月8日

各位

会社名 株式会社アイリッジ
代表者名 代表取締役社長 小田 健太郎
(コード番号: 3917 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 森田 亮平
(TEL. 03-6441-2325)

連結業績予想と実績値との差異及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2026年3月期通期連結業績と2025年6月30日に公表しました2026年3月期通期連結業績予想との間に差異が発生するとともに、2026年3月期第4四半期において特別損失を計上しましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 連結業績予想と実績値との差異について

(1) 2026年3月期通期連結業績予想と実績値との差異(2025年4月1日～2026年3月31日)

	売上高	調整後 営業利益	営業利益	経常利益	親会社株主 に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 7,200	百万円 300	百万円 270	百万円 260	百万円 800	円 銭 102.61
当期実績値 (B) (2026年3月期)	7,084	246	113	135	637	81.54
増減額 (B - A)	△115	△53	△156	△124	△162	△21.07
増減率 (%)	△1.6%	△18.0%	△58.1%	△47.8%	△20.3%	△20.5%
(参考) 前期実績 (2025年3月期)	6,708	259	219	208	13	1.83
対前期実績 増減率 (%)	+5.6%	△5.2%	△48.3%	△34.9%	—	—

(2) 差異の理由

売上高につきましては、EX (Employee Experience: 従業員の体験価値) -DX領域における取引が拡大し、新たな成長ドライバーとして全社成長を牽引したものの、想定していた一部の大型案件の受注時期が2027年3月期へずれ込んだこと等により、前回発表予想を下回る実績となりました。

調整後営業利益、営業利益及び経常利益につきましては、事業拡大を支える開発体制の強化に向けて2026年3月期中に積極的に実施したプロジェクトマネージャー (PM) 及びEX-DX領域を中心とする人材採用等の先行投資により人件費等が増加した一方、上記のとおり当該大型案件のずれ込みに伴い当該費用の増加に見合う売上の獲得には至らなかったことにより、前回発表予想を下回る実績となりました。なお、2026年3月期中の人材採用等による組織体制の強化は、2027年3月期以降も継続的な収益貢献に寄与するものと見込んでおります。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記の営業利益及び経常利益の減少に加え、下記「2. 特別損失の計上について」に記載のとおり、特別損失を計上したことにより、前回発表予想を下回る実績となりました。

2. 特別損失の計上について

アプリビジネス事業におけるアプリビジネスプラットフォーム「APPBOX（アップボックス）」は、2023年4月のリリース後、エンタープライズ企業を中心に導入が進んでおり、売上高・契約社数ともに増加基調にありますが、最新の生成AI機能を効果的に統合する上で一定の制約が生じていたことから、急速に進展するAI技術への対応と中長期的な開發生産性の向上を目的とした基盤アーキテクチャの抜本的な刷新（リビルド）を実施しました。これに伴い、固定資産除却損231百万円を特別損失として計上しました。

以上